

クラウド移行？

オンプレミス継続？



# 「最適なITインフラ」実現への 第3の選択肢 とは？

# はじめに

DX（デジタル・トランスフォーメーション）やデータドリブン推進のかけ声の下、クラウド化が進むITインフラ。

その多くで期待通りの成果が得られている一方、クラウド利用での不安や不満が高じてクラウドへの全面移行に踏み切れなかったり、一部の企業ではオンプレミス回帰という動きが起こり始めています。

多くの工数をかけ、苦勞してクラウドに移行したにも関わらず、いったいなぜそうした動きがみられるのでしょうか。

その実態を知ることは、これからITインフラを変革しようとする企業や組織にとっても、重要な示唆となるでしょう。

そこで本資料では、クラウド活用を推進してから気づく問題点をひも解きながら、

これからの企業ITインフラ環境はどうすることが「最適」なのか、「クラウド移行」or「オンプレミス継続」の2択ではない、第3の選択肢、新たな実現手法について解説します。



## INDEX

クラウド利用に期待するメリット	3
移行してみて分かった、クラウド利用の問題点とは	4~5
ITインフラの選定は、「オンプレミス」or「クラウド」の2択しかないのか？	6
日立が提示する第3の選択肢～「クラウドの手軽さでオンプレミスを利用」	7
活用効果	8
活用効果① 迅速性・柔軟性	9
活用効果② 投資最適化	10
活用効果③ 運用高度化・省力化	11~12
ユースケース(i)	13
ユースケース(ii)	14
ユースケース(iii)	15
提供メニュー体系 サービス全体像	16
提供メニュー体系 ハードウェア基盤	17
提供メニュー体系 仮想化基盤	18
まとめ	19

# クラウド利用に期待するメリット

まずは改めて、企業がなぜクラウド利用を推進するのか、クラウド環境に期待するメリットから見ていきましょう。

日立が2023年1月に年商100億円以上の企業を対象に行った意識調査（有効回答数210人）では、全体の実に79%が、何らかのかたちでクラウドを利用しています。そして「クラウド型のメリットとは？」の問いに対して、以下の6項目が上位に挙がりました。

会社以外の場所でもアクセスできる

サーバやストレージの運用管理における人材の負担が少ない

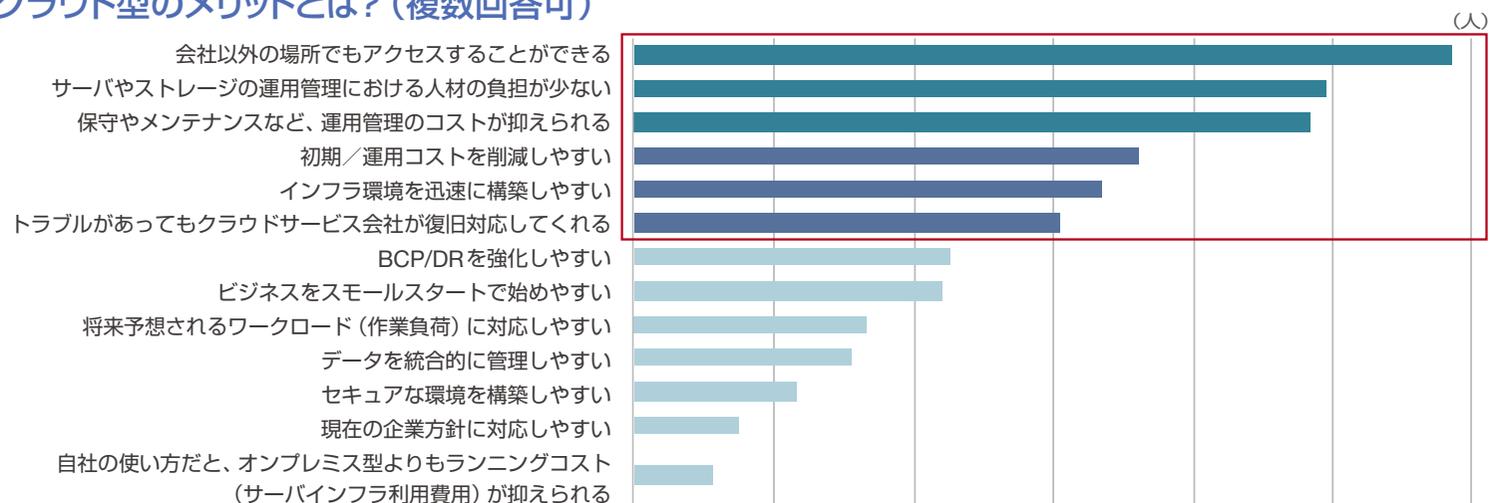
保守やメンテナンスなど、運用管理のコストが抑えられる

初期/運用コストが削減しやすい

インフラ環境を迅速に構築しやすい

トラブルがあってもクラウドサービス会社が復旧対応してくれる

## クラウド型のメリットとは？（複数回答可）



※その他3 除く

●調査期間：2023年1月実施 / ●調査方法：クローズドアンケート調査（インターネット） / ●調査対象者：年商100億円以上の会社に勤務している方（日立製作所を除く） / ●有効回答者数：210人

こうしてみると、企業はクラウドに対してアクセスしやすく、迅速に構築できるという「アジリティ（俊敏性）」と、特に運用管理における「人とコストの軽減」に期待していることが分かります。

# 移行してみて分かった、クラウド利用の問題点とは

このように高い期待と共に推進されているクラウド利用ですが、前述の通り、利用企業の中ではさまざまな問題点が浮き彫りとなって来ています。クラウド化を推進した企業は、いったいどのような課題に直面したのかを見ていきましょう。

01

## セキュリティ面での不安と不満

クラウド利用開始にあたって安全に利用できる厳重なセキュリティ対策を施すベンダーを選定しているにも関わらず不安や不満を感じる企業が多いのは、その要件設定の自由度の低さと、透明性にあるようです。

クラウドは基本的にサービスとして利用する前提であるため、クラウドベンダーはユーザー企業ごとの細かい要件にすべて応えることはできません。また、パブリッククラウドでは「責任共有モデル」が一般的。クラウドベンダー側はインフラレベルのセキュリティには責任を持ちますが、その上に構築されるサーバやOSなどは、ユーザー自身の責任となるのが大原則です。

ハードウェアレベルに近いレベルの詳細な監視やコントロールが必要とされるアプリケーションを動かす場合などでは、限界を感じるケースもあるでしょう。

02

## パフォーマンスの低下、維持が難しい

パブリッククラウドの場合、サーバは複数のユーザーと共有での利用であり、多くのユーザーが同時にアクセスすれば負荷がかかり、処理パフォーマンスが低下するケースもあります。これは業務効率やサービス提供にも影響をおよぼしかねません。

クラウド上では、仮想マシンやネットワークの帯域設定などの影響で、従来のオンプレミスよりもパフォーマンスが落ちる場合もあります。例えば、パブリッククラウド環境でバックアップとリカバリーを実施するケースなどです。

パブリッククラウド上で定義されているメニューを選択して構成を組む際に、仮想マシンの構成やネットワーク帯域設定を個別に調整することは難しいため、思うようにパフォーマンスが出せない、といった事態につながります。大容量のストレージをクラウドに移行する際は、注意が必要です。

続く



03

### 障害発生時の 対応に不満

クラウドは自社でインフラの運用管理を行う必要がないというメリットの反面、対応はクラウドベンダーに一任することになります。万一、長時間にわたってサービス停止などの事態になれば、自社の業務や顧客サービスも停止せざるを得なくなります。

また、何らかの障害が発生した際、自社ではどうすることもできず、その原因究明や対応策の検討、改善施策なども実施できない、ノウハウが蓄積されないことに不満を感じるケースは少なくないでしょう。

特にクリティカルな業務アプリケーションの場合、安定稼働や安定運用に加えて、障害が発生した際の対応力も厳しく問われるため、自社でのコントロールが効かないことは致命的です。

04

### コストが把握しづらい・ 想定外に膨らむ

クラウドにおけるコンピューティングリソースおよびストレージ利用コストは、オンプレミスでのシステム構築時にかかるハードウェアの調達費用、構築費用などと比較して安価に感じます。

しかし、クラウドベンダーは利用時間や日、週単位での利用コストや、多種多様な追加オプションなどから料金体系を構成しており、構成によっては請求結果を見るまで利用コストが判別できないケースも。そのため、運用にかかる総コストを把握しづらいとの声もあります。

例えば、データ容量の大きなストレージをクラウドへ移行した場合などは、ストレージ容量に応じた料金に加えて通信費や関連するアプリケーション、セキュリティ設定などの要素で追加費用が発生し、結果的に想定外のコスト高につながるケースがあります。

オンプレミス環境なら上記の問題点は発生しないが、クラウドのメリットは享受できない・・・

# ITインフラの選定は、「オンプレミス」or「クラウド」の2択しかないのか？

こうしたクラウド利用での不安や不満が高じて、クラウドへの全面移行に踏み切れなかったり、一部の企業ではオンプレミス回帰という動きが起こり始めています。

もちろんその動機や理由はさまざま、すべての企業がオンプレミスに回帰することが正しいというわけではありません。

多くの企業にとっての願いは、「クラウドの利用をやめてオンプレミスに戻す」ことではなく、「クラウド利用での問題点を解消したい」ということでしょう。

それではここで改めて、「オンプレミス環境」と「クラウド環境」のメリットとデメリットを、比較してみましょう。

	オンプレミス	クラウド	
導入コスト	△	◎	<b>Cost</b> 費用対効果が見込めるか？ 
運用コスト	△	○	
構築期間	△	◎	<b>Agility</b> 迅速にビジネスを拡張できるか？ 
障害対応	○	△	
カスタマイズ	◎	△	
応答速度	◎	△	<b>Security</b> 安全性は担保されているか？ 
セキュリティ	◎	△	
災害対策	△	◎	

左図のように、「オンプレミス環境」と「クラウド環境」にはそれぞれ、得意分野・不得意分野があります。

クラウドは初期コストや運用工数、スケーラビリティ（拡張性）に優れ、「クラウドネイティブ」な最新技術をサービスとしてタイムリーに活用できるメリットがあります。しかし、前ページで解説した通り、セキュリティや障害対応における「制限」があります。

一方のオンプレミスは、大きな導入コストや運用工数が発生しますが、障害対応やセキュリティなどにおいて、柔軟にカスタマイズ可能というメリットがあります。

これらの要件は大きく、「Cost – 費用対効果が見込めるか？」「Agility – 迅速にビジネスを拡張できるか？」「SECURITY – 安全性は担保されているか？」という、3つに分類することができます。



そのため、これからのITインフラを最適に保つためには、  
「Cost」「Agility」「Security」の3点を最大化することをゴールとして、  
従来の「オンプレミスを継続」又は「全面的にクラウドに移行」の二択ではなく、  
双方の「デメリットを補完し合う」方策を、検討する必要があります。



# 日立が提示する第3の選択肢～「クラウドの手軽さでオンプレミスを利用」

こうしたニーズの高まりを踏まえ、日立が提供する「EverFlex from Hitachi 日立従量課金型データ基盤ソリューション」は、長年にわたってミッションクリティカルな基幹システムを支えてきた日立の技術やノウハウをもとにした、ハードウェア基盤、仮想化基盤といったデータ基盤を、従量料金または定額料金のas a Service型で提供するソリューションです。

「クラウドの手軽さでオンプレミスを利用」を、サービスの基本コンセプトとしています。



	オンプレミス	クラウド	EverFlex from Hitachi*
導入コスト	△	◎	○ 初期費用を抑えてシステム構築が可能
運用コスト	△	○	○ クラウドと同様、利用に応じた従量料金
構築期間	△	◎	○ 従来のオンプレミスと比較して早期の構築が可能
障害対応	○	△	○ 日立がハードウェアを運用・監視、障害対応を実施
カスタマイズ	◎	△	◎ オンプレミスと同様に柔軟にカスタマイズ可能
応答速度	◎	△	◎ オンプレミスと同等のパフォーマンス
セキュリティ	◎	△	◎ オンプレミスと同等のセキュリティ
災害対策	△	◎	○ パブリッククラウドとの連携が可能

※提供メニューの組み合わせによりサービスレベルは異なります。



ITインフラを”所有”から”利用”へ  
「利用に応じたお支払い」



ビジネススピードに合わせ  
「必要なときに、必要なモノを」



オンプレミスとクラウドを  
「適材適所で使い分け」

このように、EverFlex from Hitachiは従来の「オンプレミス環境」と「クラウド環境」における一長一短を解消し、お客様のITインフラ環境における「Cost」「Agility」「Security」の最大化を支援します。

「EverFlex from Hitachi 日立従量課金型データ基盤ソリューション」の活用メリットは、大きく以下の3つです。

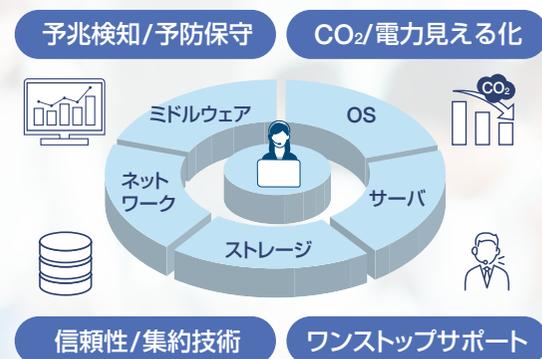
## 迅速性・柔軟性



## 投資適正化



## 運用高度化・省力化



次ページから1つずつ、詳しくご紹介します。

迅速性・柔軟性

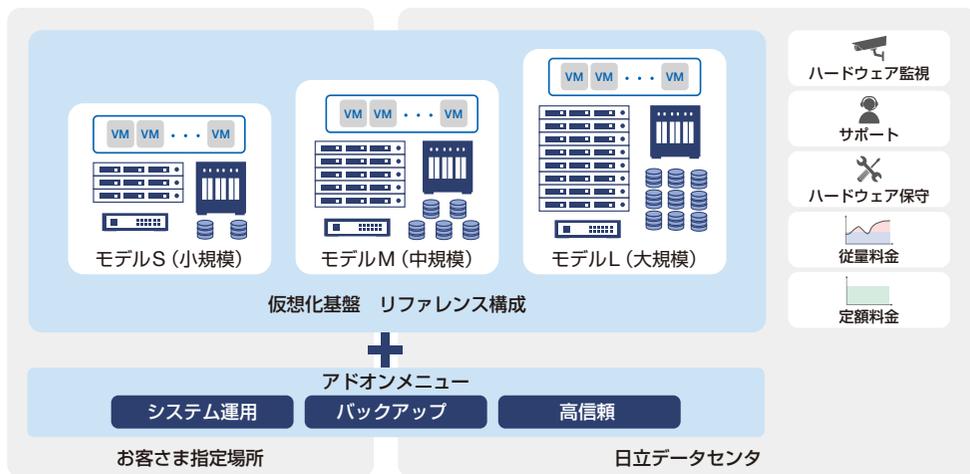


リファレンス構成



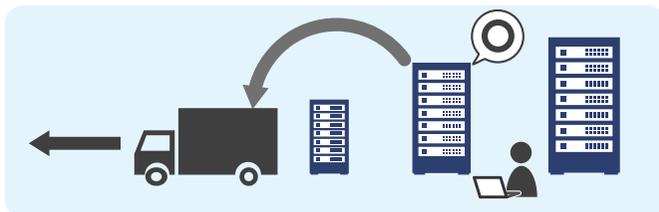
「EverFlex from Hitachi 日立従量課金型データ基盤ソリューション」は、

- ハードウェア基盤だけでなく仮想化基盤、さらにはその他のITリソースについても拡張予定
- 将来にわたって基幹システムのモダナイゼーションに貢献します。



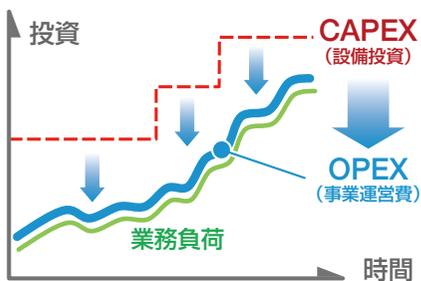
- オンプレミス環境に置いた仮想化基盤を、使用したITリソース量に応じた料金でコスト効果と利便性を備えたサービスとしてご提供。さらに、システム運用や高度な利用を支援するアドオンメニューをご用意。お客様のビジネス成長に寄り添ったITインフラを提供します。
- パブリッククラウドを利用する際に発生する、外部や国外へのデータ流出、他国の法令による制限といったリスクのない、お客様だけのプライベートクラウド環境をご提供します。
- 設置場所はおお客様のニーズに応じてご指定の場所や、日立の高信頼なデータセンターを選択可能です。

構築済み環境をご提供



- 豊富な構築実績をもつ日立のノウハウをもとにした、リファレンスモデルを提供。自社の環境規模に応じたモデルを選択いただくことで、ITインフラ調達に関わる要件定義やシステム構築の工程を削減し、迅速に導入ができます。

投資適正化



「EverFlex from Hitachi 日立従量課金型データ基盤ソリューション」は、

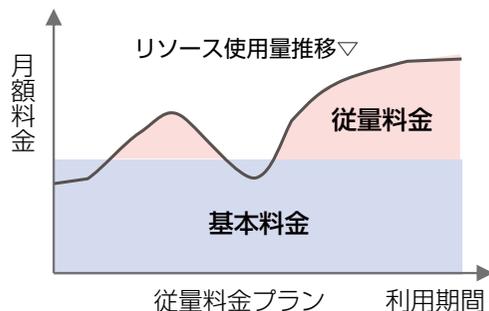
- オンプレミスのITインフラを、従量料金/定額料金で利用可能。  
CAPEX (設備投資) のOPEX (事業運営費) 化が実現します。
- 業務量の一時的な増加、新規業務の立ち上げ時など予測困難な状況でも、初期投資および過剰投資を抑制し、キャッシュフロー改善に貢献します。

料金メニュー

従量料金プランと定額料金プランをご用意。  
ご利用要件に応じてご選択いただけます。

● 従量料金プラン

基本料金(月額)で一定のリソースをご利用。  
超過リソースの利用分は従量料金(月額)。  
リソースの需要増減にも従量料金での  
対応が可能。



● 定額料金プラン

仮想化基盤をリソースの使用量に関わらず  
定額料金(月額)でご利用。  
料金変動がないため予算化しやすく、  
キャッシュフローの平準化が実現。



従量  
料金

使用量に応じて、追加で必要になる料金  
・基本料金に含まれるリソース量を超えたリソース  
使用分の料金

基本  
料金

使用量に依存せず、必ず必要になる料金  
・仮想化基盤と基本料金に含まれるリソース分の料金  
・サポートサービス ・HW監視通報 ・保守費  
・構築費 ・サービス運営費など

定額  
料金

使用量に依存せず、必ず必要になる料金  
・仮想化基盤に搭載するリソース分の料金  
・サポートサービス ・HW監視通報 ・保守費  
・構築費・サービス運営費など

## 運用高度化・省力化

予兆検知/予防保守 CO<sub>2</sub>/電力見える化



信頼性/集約技術 ワンストップサポート

「EverFlex from Hitachi 日立従量課金型データ基盤ソリューション」は、

- 長年にわたり基幹システムを支えてきた日立の豊富な運用ノウハウをもとに、運用の高度化と省力化を実現します。
- 万が一の障害発生時にも、仮想化ソフトウェアを含めて日立がワンストップで対応します。
- 予兆検知による計画保守により、お客さまの運用負荷を軽減しつつ、業務継続性を向上します。
- 専用ポータルダッシュボードによるカーボンニュートラル達成に向けたCO<sub>2</sub>排出量の見える化など、経営課題解決にも貢献します。

## 信頼性/集約技術

日立ストレージの高信頼化・仮想化技術により、オンプレミス・クラウドで高信頼の共通データ基盤を提供



### 日立ストレージ Hitachi Virtual Storage Platform

#### 高信頼化技術

##### データ保護技術

ドライブ障害対策  
誤り訂正符号  
ライトスルー処理

##### 多重化・冗長化

コントローラ  
ドライブ など

#### 仮想化技術



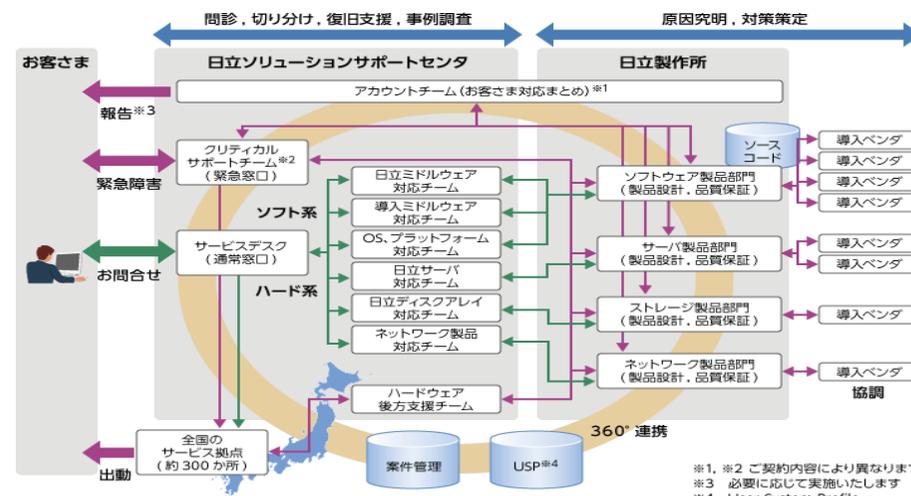
#### データ基盤

#### 仮想化で統合

搭載ドライブ 異機種ストレージ クラウドストレージ

## ワンストップサポート

複雑に組織が絡み合っている日立サポート360の体制。これら組織とプロセスによりワンストップサポートを提供します。

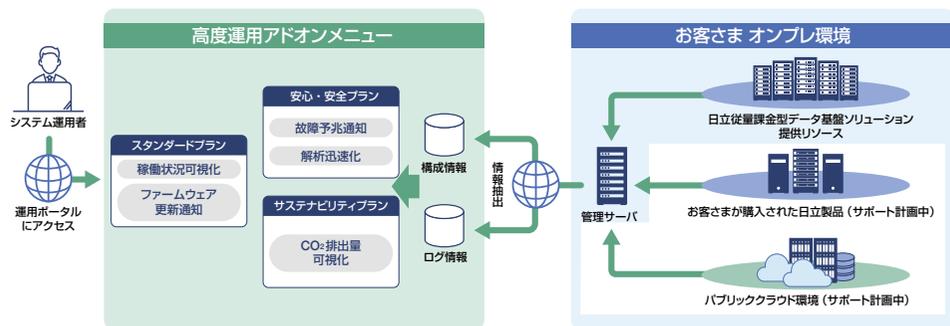


※1, ※2 ご契約内容により異なります  
※3 必要に応じて実施いたします  
※4 User System Profile



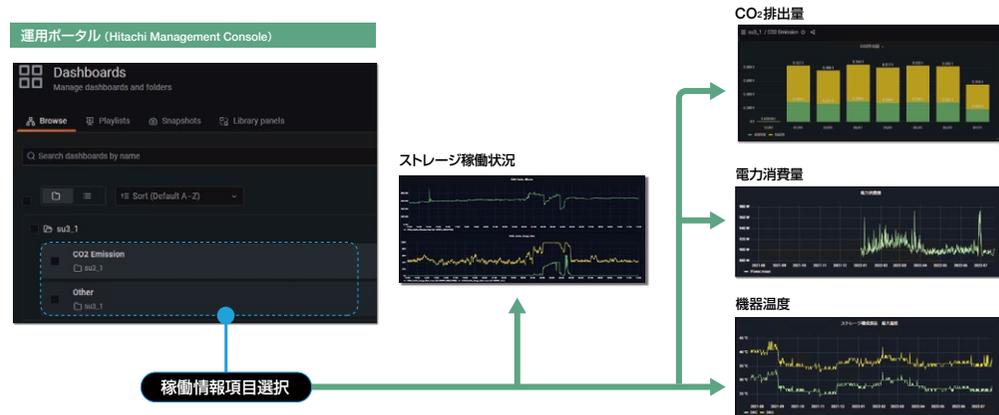
## 予兆検知/予防保守

- 日立の長年の技術開発のノウハウによる、高精度な故障予兆検知を提供
- 予防保守で故障を未然防止することに加えて、お客さま業務に合わせて予防保守が可能
- 計画的な保守を実現することで、基盤の管理・運用の負担を軽減



## CO<sub>2</sub>/電力見える化

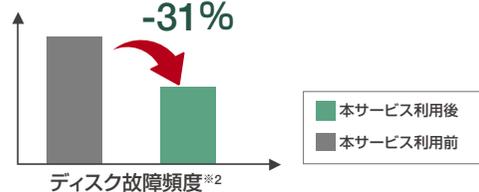
- 専用ポータルでのダッシュボードで、IT 機器やシステム単位での CO<sub>2</sub> 排出量を見る化、脱炭素化推進を支援



## 故障前予兆交換で「システム安定稼働」へ貢献

### 故障予兆交換の適用効果※1

故障による交換が  
**3割減少**



※1 国内お客さまのディスク故障実績

※2 突発的なディスク閉塞による保守交換を示します



## (i) 従来のオンプレミス環境からEverFlex from Hitachiへのリプレース



企業システムのハードウェア更新を控えており、特に製造業の制御システムや品質管理システムなどの稼働停止が、ダイレクトに機会損失につながる企業

従来のオンプレミス環境は、「ハードウェアの老朽化」「OSのアップデート未対応」などが起因となって業務に影響する障害が発生する前にリプレースしている \*通常は法定耐用年数に基づき5年ごと



従来のオンプレミス環境



EverFlex from Hitachi

消費したリソースに対してコストが発生する従量料金プランのため、ハードウェアなどの過剰投資を回避でき、キャッシュフロー改善に寄与

Cost

従来のオンプレミス環境の運用に費やしていた運用担当者のリソースを極少化、故障予兆検知などの機能で運用品質も向上

Agility

お客さまご要望のサーバ構成とともに、予備リソースをあらかじめ配備、将来のリソース増強見込みや急なリソース増強にも対応

Agility

組織のセキュリティポリシーに合わせて対策が実施でき、ローカルネットワークの閉じた環境で物理的な制御と監視を行い、厳格なセキュリティ対策を実現

Security

これまでのオンプレミス環境のお困りごとを解決しつつ、クラウド環境で享受できるメリットも合わせて運用

## (ii) 既に移行済みのクラウド環境からEverFlex from Hitachiへのリプレース (オンプレミス回帰)



EC事業を行う小売業や消費財メーカーのWeb直販部門など、ビジネスの拡大に  
ひもづいて顧客ニーズが多様化し、カスタマイズや顧客データの安全な管理にも  
配慮するニーズが増えている企業

DXを推進してビジネスの変化に即応するためにクラウドへ企業システムを移行したが、  
事業の拡大や顧客満足の追求の観点から、クラウドでは対応できないニーズを認識し始めている



クラウド環境



EverFlex from Hitachi

アクセス数やデータ転送量による  
料金、多種多様な追加サービスで  
費用が発生し、結果的に割高にな  
るケースもあり、コスト圧縮のた  
めにオンプレミス環境へ回帰

Cost

多様化する顧客要求に合わせてビ  
ジネスを拡大するために、柔軟な  
カスタマイズが可能なオンプレミ  
ス環境へ回帰

Agility

システムのレスポンス向上を求め  
る顧客の声に応え、機会損失を極  
小化するために、オンプレミス環  
境での低レイテンシ化を追求

Agility

コンプライアンスやリスクマネジ  
メントの観点から、秘匿性の高い  
顧客情報や機密データは、より堅  
牢なセキュリティを実現できるオ  
ンプレミス環境で管理

Security

オンプレミス環境の運用についても  
日立が強力に支援

## (iii) オンプレミスとクラウドを使い分けたハイブリッドクラウドへの転換



製造業や小売業の基幹システムなど、事業に重要なデータはオンプレミスで管理し、データ分析や需要予測などのアプリケーションはクラウドで対応しビジネスの拡大を進める企業

ビジネス推進・拡大や高可用性の追求のために適材適所のITインフラ整備を計画、クラウド移行中に残存した移行できないオンプレミス環境の対処を検討している



クラウド環境



EverFlex from Hitachi

機密性の高いデータのみをオンプレミス環境で管理、機密性の低いデータはクラウド環境を利用することで、全体のシステム運用コストを低減

Cost

ビジネス推進 / 顧客満足度の向上を目的とした適材適所のITインフラの配置と、高い事業継続性の維持

Agility

オンプレミス環境もクラウド環境も、消費したリソースに対する従量料金プランに統一し、ITインフラコストの最適化を実現

Security

本番環境をオンプレミス環境、DR環境をクラウド環境とし、オンプレミスとクラウドの両方でバックアップを取得、低コストかつ少ない運用工数のDR環境を構築

Security

適材適所のITインフラを設計するために  
クラウドライクなオンプレミス環境を提供

本ソリューションでは、ハードウェア基盤、仮想化基盤という大きなベースのサービスをご用意。各サービスは、定額料金と従量料金の2種類の支払いモデルを備えています。

また、ミドルウェア層まで広げた as a Service を今後、拡充していく予定です。

これらベースのサービスに加えて、システムの導入や運用、クラウド連携を支援するアドオンメニューも用意しています。

クラウド連携、高信頼サービス、環境情報管理などから、お客さまの要件に応じて選択することが可能です。



ハードウェア基盤は、IT機器のリソースを月額支払い型でご提供。  
ベーシック、コンサンプション、カスタムの3つのメニューを用意しています。

## ベーシック

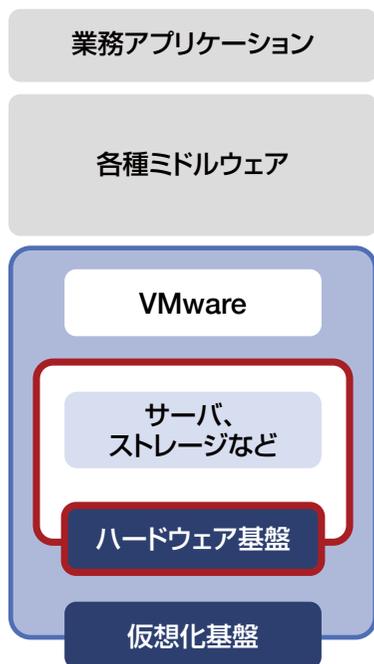
お客さまのご要望に沿った機器構成を、導入・保守・サポートサービスをパッケージ化。定額料金、または従量料金でご利用いただくサービスです。

## コンサンプション

事前に設計済みのストレージをお客さま環境に設置、従量料金にてご利用可能。事前に構成済みのストレージにてサービス提供するため、最短1週間で機器導入が完了します。

## カスタム

お客さまの要件に応じたオーダーメイドサービス。運用も含めてサービス提供します。



メニュー	ベーシック	コンサンプション	カスタム
ポイント	サーバ (HCI含む)、ストレージ、VDIシステムなど多種多様なITインフラに導入・保守・サポートサービスをパッケージ化!  <b>定額料金/従量料金でのITインフラ利用をオンプレミスで実現!</b>	事前にハードウェア設計済みの日立ストレージを各種モデル化!  <b>スピーディーかつ従量料金でのITインフラ利用をオンプレミスで実現!</b>	IT機器の提供範囲をフルカスタマイズで対応! 日立による運用代行も可能!  <b>オーダーメイドなサービス提供!</b>
料金プラン	定額料金プラン または 従量料金プラン*	従量料金プラン*	定額料金プラン または 従量料金プラン*
対象製品	サーバ (HCI含む)、ストレージ、VDIシステム、周辺機器	ストレージ	サーバ、ストレージ、周辺機器
構成	お客さまのご要望に沿って自由に設計	事前構成済みのモデルをお客さまが選択	お客さまのご要望に沿って自由に設計
搬入までの納期	1.5か月～	1週間～	1.5か月～

\*ベーシックの従量料金プランは、VMware 環境に対してのみ提供可能です。

仮想化基盤は、VMware ESXiとvCenterの環境を含む仮想化環境をお客さまにご利用いただくサービスです。

サービス側でS/M/Lのリファレンスモデルをご用意しています。

- **モデルS**：物理サーバ3台に加え、ストレージ、ネットワーク機器、VMware環境を、日立内で構築して、お客さま環境にお届けします。同様に、
- **モデルM**：物理サーバモデル5台
- **モデルL**：物理サーバモデル8台の構成です。

いずれもリファレンスモデルを参照いただくことで、構成設計、見積もりにかかる時間や手間を削減することが可能。また、ご要件に合わせて、リファレンスモデルから外れる構成も提供可能です。



		モデル S	モデル M	モデル L
物理構成	ホストサーバ	3台 (2+1冗長化構成)	5台 (4+1冗長化構成)	8台 (7+1冗長化構成)
	ストレージ	ミッドレンジ SAN対応ブロックストレージ SAS HDD搭載		
	ネットワーク	48ポート 1G L2スイッチ 2台冗長化構成		
仮想化構成	仮想化ソフトウェア	VMware vSphere® 7.0 Enterprise Plus		
	操作系	VMware vCenter® のユーザーインターフェースをご利用いただけます		
リソースプール 容量 (物理容量) <sup>※1</sup>	CPU	96 コア	160 コア	256 コア
	メモリ	768 GB	1,280 GB	2,048 GB
	ストレージ <sup>※2</sup>	6,441 GiB	16,103 GiB	28,987 GiB
その他	サポート	ハードウェア障害監視：24時間365日、ハードウェア保守：24時間365日、ハードウェア・ソフトウェアに関するお問い合わせ：24時間365日 <sup>※3</sup>		
料金プラン <sup>※4</sup> (右記より選択)		基本料金 + メモリとストレージ利用量に応じた従量料金 (月額)		
		モデルごとに設定された 定額料金 (月額)		

※1 仮想化ソフトウェア、管理基盤が利用するリソース、冗長化ホストのリソースも含まれております。ハードウェアの仕様変更などにより変更される場合があります。

※2 RAIDレベルをRAID6 (6D+2P) を前提として算出しております。

※3 月曜日から金曜日の午後7時から翌午前8時、土曜日、日曜日、「国民の祝日に関する法律」に定める休日、および日立が定める年末年始の休日（12月29日から翌年の1月3日）の午前8時から翌午前8時は、お客さまの業務が続行不可能などの緊急性の高い障害に関する問い合わせに限りません。

※4 別途、ご指定場所への搬入と撤去に関わる一時費用を頂きます。

## まとめ

本資料では、クラウド移行後によく挙がる問題点と、オンプレミス・クラウドにおけるメリット・デメリットを比較、3つの要件を最大化する手法として、日立が提供する「EverFlex from Hitachi 日立従量課金型データ基盤ソリューション」についてご紹介しました。

いまや、DXやデータドリブンの推進において、クラウドの活用は欠かすことのできない要素です。しかし、ミッションクリティカルなシステムや重要なデータのセキュリティを、特定のクラウドベンダーに依存することは多くのリスクをはらみます。とはいえ、クラウドから再びオンプレミスへ戻すことは、導入コストや工数、そして運用リソースの確保など、さまざまな課題をもたらします。

そのため、今後はオンプレミス・クラウド双方のメリットを組み合わせ、デメリットを補完し合うやり方を検討する必要があります。

その現実的な実現手法が「EverFlex from Hitachi 日立従量課金型データ基盤ソリューション」です。

現在、インフラ環境においてクラウド推進中で課題を抱えている、もしくはクラウドへ移行したいが思うように進められないお客さまは、ぜひ日立までご相談ください。



インフラのご利用に関するご相談、  
日立従量課金型データ基盤ソリューション  
に関するお問い合わせはこちら

<https://www8.hitachi.co.jp/inquiry/it/consumption/form.jsp>

- VMware、VMware vCenter、VMware vSphere、VMware ESXiは、米国およびその他の地域におけるVMware, Inc. の登録商標または商標です。
- EverFlexは、Hitachi Vantara LLCの商標または登録商標です。
- その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の登録商標もしくは商標です。
- 記載されている仕様は、予告なく変更させていただく場合があります。

## インフラのご利用に関するご相談、日立従量課金型データ基盤ソリューション に関するお問い合わせは下記へ

### ■ ソリューション情報サイト

<https://www.hitachi.co.jp/products/it/consumption/>

### ■ インターネットでのお問い合わせ

<https://www8.hitachi.co.jp/inquiry/it/consumption/form.jsp>